

③ 国道486号「道の駅 山陽道やかげ宿」整備事業

受賞機関 岡山県 備中県民局 建設部 井笠地域工務課
矢掛町 建設課

キーワード 重要伝統的建造物群保存地区、道の駅施設と商店街の一体化、駅舎デザイン、地域活性化

全建賞審査委員会の評価ポイント

まちづくり、道路整備と道の駅整備の連携事業。歴史ある街並みをいかして、景観に配慮した道の駅、周辺地区の無電柱化事業、石畳風の舗装高質化事業などを連携して一体的に整備し、町中の道の駅の新たなデザインが提示された点や、地域資源との連携によりゲートウェイ機能としての道の駅とした点が評価された。

1. はじめに

岡山県南西部に位置する矢掛町は、江戸時代に宿場町として栄え、東西に国道486号と並走する旧山陽道に往時の面影を残す町並みがある。参勤交代で往来する大名が宿泊した矢掛本陣等は国の重要文化財に指定されており、令和2年には重要伝統的建造物群保存地区にも選定されるなど、歴史ある町並みが魅力の一つとなっている。

「道の駅 山陽道やかげ宿」は、歴史ある町並みと商店街が共存するエリアに、国道486号を管理する岡山県と矢掛町の一体型整備手法によって整備が行われ、令和3年3月28日に開業した。

2. 事業の概要

この道の駅の最大の特徴は、飲食・物販コーナーを設けていないことである。道の駅の役割は、「機能性と景観を両立した駐車場やトイレなどの道路施設」と、「観光・特産品の情報発信に特化した町の総合的なゲートウェイ施設」と位置付け、地元住民・商店街振興会・観光協会・町などが連携し、『やかげまるごと道の駅』のコンセプトのもと、隣接する商店街そのものを道の駅の物販及び飲食コーナーとみなし、道の駅施設と商店街の一体化を図ることで、市街地全体の活性化を目指した。

道の駅に隣接する重要伝統的建造物群保存地区におい



道の駅 山陽道やかげ宿

ては、『やかげまるごと道の駅』全体として良好な景観を形成するため、矢掛町が町道の無電柱化事業を推進し、石畳風の舗装高質化事業を実施した。

駅舎デザインは、岡山県出身の工業デザイナー水戸岡鋭治氏に監修いただき、観光客はもちろん、地元住民にも心地よさと豊かな時間を実感できるよう願いを込めた。外装は、町並みと親しく調和しながらランドマークとしての役割を果たし、内装は、かつて大名が宿泊した地にふさわしい深みと品格のある空間とする「新たな本陣」を目指した。

3. 事業の成果

矢掛町は人口1万4千人の町であるが、地域を挙げての取組の結果、開業4ヶ月で10万人もの来場者があり、令和3年7月には10万人目の記念セレモニーを行った。

道の駅に隣接する商店街の町道を歩行者天国とし、イベント「やかげまるごと道の駅」を開催したところ、大勢の家族連れが訪れ、大いに賑わい、商店主からも好評であった。

地元及び商店街等と一体となった定期的なイベントでの盛り上がりだけでなく、商店街には行列のできる店が増え、新規出店も続くなど、新たな賑わいが生まれている。



歩行者天国となり賑わう商店街

4. おわりに

矢掛町は、町と地元住民が連携し、まさに「まるごと」を駆使した地域活性化を目指しており、

「道の駅 山陽道やかげ宿」の開業は、「賑わいのまち矢掛町」を実現するための新たなスタートと考えている。町内外を問わず多くの方々とともに、矢掛町の新たな魅力を発信していきたい。

賛助会員 復建調査設計(株)